

書あり 師あり 友ありて



忘れてはならない記憶

～ 明日は阪神・淡路大震災から25年です ～

学校長 平田 高之

年末から多くのマスコミで取り上げられています。阪神・淡路大震災から明日で25年となります。当時のことは、皆さんの記憶にはどのように残っておられますか。

私はオーストラリアのメルボルン日本人学校に派遣されており日本にいませんでした。学校の事務長から、関西で大きな地震があったらしいからすぐに実家（神戸市灘区）や大蔵中学校に連絡を取るようにと言われたのが第一報でした。当時は、活断層は知られておらず、何の根拠もなく「関西は地盤が固いから地震は大丈夫。」と勝手に思い込んでいましたから、最初は大したことないだろうという認識でした。25年前ですから今のようにインターネットが発達していませんし、携帯電話もありません。とりあえず、大蔵中学校と実家に連絡を取ってみました。幸い学校には連絡が取れ、亡くなった生徒や先生はおられないことが確認できほっとしましたが、なかなか実家には連絡が取れませんでした。連絡が取れたのはその日の夕方、建物自体は半壊でしたが、家族の無事とそのまま住めることが確認できました。その日の夜に、メルボルンの日本人向けテレビ番組で配信されていたNHKのニュースに、自分の生まれ育った神戸の街の変わり果てた姿が写し出された時は、衝撃と悲しみに涙が止まりませんでした。その後、東灘区の社宅に住んでいたことが、建物の下敷きになり亡くなったという事を聞き呆然としたことが昨日のことに思えます。

ですので、私にはあの震度7の経験がありません。日本に戻ってきたのは1年後1996年3月でした。更地や仮設住宅は残っていましたが、街の姿は、震災当時からかなり変わっていましたので、阪神・淡路大震災で人々が苦しんだ様子を体験として子どもたちに語りかけることができません。

本校では、1月16日の「震災を考える給食」の際に、各学級の給食委員がおむすびを作り、給食委員長がメニューの意味や当時の様子について放送で全校生に呼びかけます。また、1月17日には、シェークアウト訓練と黙祷、1月22日には、明石市総合安全対策室から講師を招き、防災講演会を実施します。本校は明石市でも東部に位置しているために避難所が設置される等、被害を受けた方が多い校区でした。私たちには、犠牲になられた方々やそのご遺族の思いを鑑み、この震災を伝えていく責務があると思っています。

<明石市の状況>（神戸新聞「写真で振り返る25年前」より）

- 地震規模(推計): 明石市東部海側は震度7・西部海側は震度6・山側は震度4～5
- 明石市民の犠牲者: 26名
- 住宅被害: 全壊4, 239件・半壊1万9577件・一部損壊3万5, 618件
- 避難所: 学校や公民館23か所
- 仮設住宅: 13か所856戸

<本校の状況>（「大蔵中学校 創立50周年記念誌」より）

- 1月17日: 緊急避難所開設(武道館・技術室) 避難者約400名
- 1月21日まで臨時休校
- 2月 1日: 学校施設応急危険度調査
- 2月18日: 教職員による炊き出し
- 4月16日: 避難所閉鎖

実は校区には阪神・淡路大震災のモニュメントがありますがご存じでしょうか。ちょうど1月15日の神戸新聞に、中崎小卒業生のタイムカプセル開封の記事が出ていました。

モニュメント「明日」(明石市大蔵海岸町1)

青々とした松の若木に囲まれた明石海峡に臨む公園の一角。高さ3メートル、長さ3メートルの白御影石で作られたモニュメントは、横たわった石の先端が震源地である淡路島北部を指し、ひしゃげた部分が地震の大きさを表現、垂直に立つ石が明日への希望を表している。建立は2000年1月17日。(今年で20年になります)銘板には、「兵庫県南部地震の犠牲となった市民の御霊を慰めるとともに、震災の貴重な教訓を後世に伝え、安心して暮らせるまちづくりを進めることを誓い、ここにモニュメント「明日」を設置します。」と刻まれている。下には、亡くなった市民26人の名前を刻んだ銅板などが入ったタイムカプセルが埋設されている。

「震災を越えて(兵庫県教育委員会)平成17年3月31日」より



先端の方向の景色

この震災を機に兵庫県では、防災教育副読本「明日に生きる」を発行（平成9年1月）する等して防災教育を推進。平成10年から「トライやる・ウィーク」を実施。震災・学校支援チーム（EARTH）の設置（平成12年4月1日）。さらに、県立舞子高等学校に、全国でも初めて防災をテーマにした環境防災科を設置（平成14年4月）等、様々な取組が行われてきました。しかし、年数が過ぎるにつれ、震災経験者が減っていく中で、ここ数年ルミナリエが資金不足で実施が危ぶまれる等、震災が風化していくのではないかとということが危惧されています。学級等でも震災に係る話をしていきますので、この機会に、保護者の皆様の経験等をお子様と語り合ってください、語り継いで頂ければと願っています。

震災・学校支援チーム(EARTH)について

兵庫県教育委員会では、震災時に全国から受けた支援に報いるために、他府県において震災等の災害があった場合に、学校再開を支援するための教職員による組織を設置しました。県内外だけでなく海外の被災地へも派遣され、学校の復興支援活動にあたることともに、普段は、県内外の防災教育の研修会等で講師を務める等しています。